

「穴」

自然科学研究機構の施設の壁の向こう側では何が行われているのだろう。
観察や実験を通じて研究者はどんな世界を見ているのだろうか。
そこにはどのような景色が広がっているのだろうか。
といったように科学と日常に壁を設けてみる。

日常において科学の恩恵を多々受けているが、科学を意識することはあまりない。
すべてではないにしても研究者の解説を聴くことで少しはその内容を知ることができるだろう。
そして、その話は普段目にする現実新しい発見や関心をもたらすかもしれない。

さて、その時壁はどこにあるのだろう。

ルネ・マグリットの作品に「言葉とイメージ」という挿絵付きのテキストがある。
その中に、「背後に他の物体があると考えさせる物体がある」という言葉が添えられたレンガ塀の絵がある。

私はそのレンガ塀のレンガをひとつ抜いてその向こう側を覗いてみようと思った。

向こう側には何があるのだろうか、と興味を持ちつつ想像することはできるだろうか。

未知のものを知ろうとする問いは、新たな問いを生み研究はどこまでも続くのかもしれない。

Un objet fait supposer qu'il y en a d'autres
derrière lui :

